HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「フランスで最も美しい村」連合運動と「美」概念の具現化についての考察
Author(s)	加藤, 知愛
Issue Date	2012-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/87591
Type	proceedings (author version)
Note	平成24年度 日本造園学会北海道支部大会、2012年10月6日(土)～7日(日)、札幌市立大学サテライトキャンパス、他
File Information	Bi_no_gainen_2012.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「フランスで最も美しい村」連合運動と「美」概念の具現化についての考察

北海道大学国際広報メディア・観光学院　博士課程後期　加藤　知愛

１．はじめに

1982 年にフランスに発祥した「世界で最も美しい村」運動は、ゆるやかな一体感を共有してイタリア、カナダ、ベルギー、日本へと広がり、2012 年７月７日には、各国の運動を統合する世界連合機関が発足した。この運動の特徴は、国別の地理的文化的特徴の相違を越えて、「美しい村づくり」という目的と手法を共有して持続してきたことにある。これを扱った文献は、ツーリズムや農村振興政策・地域活性化政策の観点から論考されたものが多く、理念と思想史からアプローチされたものは殆どない。よって、上記運動の原点となる「フランスの最も美しい村」連合の美しい村づくりに、思想史上の「美」の概念が具現化されている現象を取り上げ、その関係性に照射して報告する。

２．方法

1）「フランスで最も美しい村」連合が進めている運動に代表される「美しい村づくり」とは、その国なりの伝統美を時間と空間を越えて現代に再現する技術であるということができる。連合規約と加盟審査基準を対照することにより、めざす理念と実現しようとする「美しい村」の姿をトレースする。

２）上記理念とその実現において、西洋思想・哲学史上の「美」の概念が、田園空間の形成上、どのように具現化されているかについて、フランスプロバンス地方ゴルドー周辺地域の事例を掲げて紹介する。

３．結論

フランスの「美しい村づくり」に流れる「美」の概念の系譜は、「真・善・美」概念を生んだギリシア哲学と新プラトン主義に辿ることができる。これらの概念は、多様な空間芸術によって現代的諸価値に転化され具現化されてきた。「美しい村づくり」とは、その国なりの田園の伝統美を、時間と空間を越えて現代に再現する技術である。そこにあらわれる「美」概念は、主に５つの要素に顕著な関係性がみられる。すなわち、①町づくりにかかわる人々に、「美しい村」の具現化という主題を明示する：「真・善・美」概念の意識化、②町に暮らす人々に、次世代のコミュニティの理想像を描くことを促し、未来を形成する事業に向き合わせる：プラトニズム・新プラトニズムの実践、③農村景観形成により現出した空間芸術の精神的湧水となって、人々の感性を呼び覚ます：ロマン主義の実現、④世界連合に帰属することによって、町や村が、世界規模での運動の特徴を捉え、自らの立ち位置と存在意義を体得する：構造主義による世界の把握、⑤町や村・住民たちが、アイデンティティに回帰し、自ら（人とコミュニティ）の実存を紡ぐ物語を再構築させる：実存主義の実践、という５要素である。

では、翻って「日本で最も美しい村」にそうした特徴を見ることができるだろうか。連合規約と加盟審査基準の対照では、フランスの「美しい村づくり」の特徴と多くの共通性が見られた。しかし、地域性や歴史文化から生まれる「美」概念の内実の相違が、「美しい村づくり」に反映され、異なる農村景観が形成されている。田園の美しい村は、人やコミュニティのアイデンティティを確認する場であると同時に、町や村の営みにより絶えず創造され、変化する。それゆえ、これに確たる定義を付することは難しい。しかし、具現化されたものを観察することによって、芸術としての「美しい村」が、人々に「美」のイメージを伝達し、人々は暮らしの中でそのイメージを解釈して、自らの物語に紡いでいることがわかる。「美しい村づくり」は、こうした営みを支える理念と手法とを提示している。

参考文献

Les plus beaux villages de France, Les plus beaux villages de France,1982-2012

篠田浩一郎『フランス美と歴史の発見』美術出版社,1967

マルク・ブロック『フランス農村史の基本性格』創文社,1959

プラトン『饗宴』岩波書店,1952　他

リチャード・セネット『公共性の喪失』晶文社,2004

田中美知太郎編『プロティノス・ポリュプリノス・プロクロス』中央公論社,1980

小穴晶子『なぜ人は美を求めるのか』ナカニシヤ出版,2008